

第6回「海友フォーラム」懇談会 討論 16.45～18.30

主要発言要旨 < >内は分類項目、敬称略。(文責 岡本)

(間野)<教育> 日本の造船業の今後目指すべきは pollution 対策と新技術の分野である。

(豊田)<省エネ> 省エネ・CO2削減を狙っての、船舶の岸壁停泊中の陸電の利用技術がすすんでいる。既に米国 Los Angeles 港で供用 (AMP (Alternative Maritime Power, 2007 年開発)されており、建設中の神戸港 PI スーパー中核港湾にも設備されると聞いている。

(大野)<教育> 造工の社会人教育において、造船仕事を担当している。年間(4,6,9月)1.5時間 x3 駒授業。現在、造船関係において、人材教育が重要。「工学部ばなれ」に関しては筑波で原子力関係の社会人教育が行われている。造船の社会人専門大学院があっても良い(提案しているが、具体化の動きはまだ)。

(野澤)<教育>大学の制度改正(独立法人化)以降、大学の先生、特に若い先生は非常に忙しく自分の研究時間が少なくなってきた様に感じる。造船あつての船舶工学なので若い先生にはもっと造船所との相互交流を深めてもらいたいと思っている。また、我々の造船所勤務時代には造船共通の開発課題が多く SR を通して切磋琢磨でき得るところが大であった、現在は昔の SR がなくなり若手(産学官の)にとって他機関の関係者との活発な交流、刺激の場がなくなった。若手の発奮ひいては造船業界高揚のためには社内、国内にこの種の間や雰囲気也不可欠であろう。また、2006年中国・大連の学会出席で感じたことは、大連理工大の学生の研究課題が現地造船所の興味ある課題と直結しているものが多く学生も活発に発表しており産学連携がうまく機能しているように感じた。学生も研究目的が明確になり研究推進に大いに役立っている様子であった。

(岡本) 大連理工大では同じ経験(2008年)をした。実学指向は大連理工大の方針と同学某教授から聞いたが、然し、上海交通大では、理論指向が強い、と国内某教授から聞いている。

(間野)大学の業界密着志向は大学の墮落である。

(城野)<教育>昔は企業における OJT がしっかりしていたが、今は企業の中堅に人材の空白がありうまくできていない、様に思われる。社会人教育として、新しい考えの人材教育必要。

<教育>一人だけの例で全体を評するのはよくないが、優秀中国人技術者は IT 技術など、一人のできる技術の勉強に熱心。造船技術のように重厚長大な技術、修得に長時間を要する技術は嫌い。修得成果を早く求めることを好む傾向が伺える。

(山中) <組織・研究費>造船におけるキャリアパスがはっきりしなくなっているのではないか。現在、先端分野(バイオ、電子、ケミカル、ヘルスサイエンスなど)では数億円/年の研究開発費を獲得する研究室があり、学生は嬉々として研究に没頭している。就職もよい。工学部でも、実学からサイエンスまである。革新的な研究が望まれる

(藤田) <組織>工学部の全体として、時代にあった適正人数があってしかるべきであろう。1957年に理工計増員計画の時代が始まり、理工系学部の新設が相次いだ。その後のバブル崩壊後(1991年)も増員された定員がキープされた中で、工学部志願者数は、1995年からの10年間に志願者は5730万人に減少した。工学部の規模はある程度社会の需要を見据えたものであるべきであろう。理工離れはEU、米国でも共に深刻な問題であり、対策が進んでいる。又、理工系の生涯収入が相対的に低いことに問題がある。

(岡) <技術開発>日本の造船技術は成熟してしまった。野澤さんが「韓国・中国の造船屋と話をすると、ずっと元気がある」と言われるのは、彼等がまだ発展途上で貪欲な研究意欲を持っているからであろう。我々の時代は、SR等、産学協同で若手の活躍の場もあったが、今はSRも無くなってしまったとか……。若手を活性化するには、今後何を開発したらよいか目標/問題点を見出すべき。目標/問題点のはっきりした工学部門では、それなりに活発にやっている。

(藤村) <提言>現役の方々は目の前のことに専念の傾向、そこでシニアこそが長いスパンの提言をする役割を担えるのではないか。今回のような討論を纏めて提言するのが望ましい。Kシニアなどを通じ広く発表することを考えたかどうか。(岡本)私がかねがね、そのような考えでやってきたが、色々問題があった。貴重なご意見として当然検討します。

(城野) <お願い>今後の取り組みの参考としたいので、各自意見・感想、などA4に記入して後日提出をお願いしたい。(以上)

追記 この発言要旨取りまとめの過程で一部追加の資料を、発言された方から頂きましたが、当日の発言と言う意味から取捨編集しました。頂いた全文は今後集計の資料と共に利用させて頂きます。//